蓬萊の玉の枝 ―― 「竹取物語」から (4)

蓬萊の玉の枝

かぐや姫から蓬萊の玉の枝を持ってくるように言われたくらもちの皇子は、にせの玉の枝を作らせ、翁の家で架空の冒険談を語っています。

その山、見るに、①さらに登るべきやうなし。
その（蓬萊の）山は、

その山のそばひらをめぐれば、世の中になき花の木ども立てり。
斜面の裾をめぐっていくと、この世にはない花の木々が立っている。

金、銀、瑠璃色の水、山より流れいでたり。
流れ出ている。

それには、色々の玉の橋渡せり。
それ（その水の流れ）には、さまざまな色の玉でできた橋が渡してある。

そのあたりに、照り輝く木ども立てり。
その近くに、

その中に、この取りてまうで来たりしは、
その中で、ここに取ってまいりましたのは、

いとわろかりしかども、②のたまひ（イ）しに違は（ワ）ましかばと、
たいへん見劣りするものでしたが、

この花を折りてまうで来たるなり。
この花を折ってまいったのです。

このように蓬萊の玉の枝について語っていたくらもちの皇子でしたが、そこへ玉の枝を作った職人たちが褒美を求めてやってきたため、うそがばれてしまいました。

古文の読み方

古文では主語や助詞以外にも言葉が省略されていることがある。文脈を考えて、省略されている内容を補いながら読むとよい。

（例）……違はましかばと、……
違っていては（いけないだろう）と（思って）、

重要語句

さらに……（なし）	決して・全く……（ない）
わろし	よくない・見劣りする
のたまふ	おっしゃる

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 次の言葉を現代仮名遣い（づか）に直したものとなるように、解答欄（かいとうらん）に当てはまる言葉を**ひらがな**で答えなさい。

さらに登るべきやうなし

さらに登るべき［　　　　］

(2) 次の言葉を現代仮名遣いに直したものとなるように、解答欄に当てはまる言葉を**ひらがな**で答えなさい。

まうで来たるなり

［　　　　］来たるなり

(3) ——線①「さらに登るべきやうなし」の意味を選びなさい。

ア これ以上登るべきではない
イ そのままでは登る必要がない
ウ 全く登りようがない

［　　］

(4) ——線②「のたまひしに違はましかばと」の意味を選びなさい。

ア いただいたものとは違わないだろうと思って
イ おっしゃったものと違っていてはいけないだろうと思って
ウ 申し上げたものと違っているほうがよいだろうと思って

［　　］

(5) 次の中から、くらもちの皇子が語った内容に合うものを選びなさい。

ア 山の頂上には、照り輝く木が立っていた。
イ 金・銀・瑠璃色の水には、玉の橋が渡してあった。
ウ くらもちの皇子は最も美しい花を持ってきた。

［　　］